

(一社) 日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会
第 37 回 PLM 分科会 (P14SC) 議事録

1. 日 時 平成 27 年 5 月 28 日 (木) 13:30~15:30
2. 場 所 (一社) 原子力安全推進協会 13 階 D 会議室
3. 出席者 (敬称略)
(出席委員) 鈴木 (主査), 渡邊 (副主査), 三山 (幹事), 遊佐, 矢野, 萬年, 大城戸, 伊藤, 三好 (松村代理), 上坂, 広木, 下家, 山下 (猿渡代理), 一森, 中川 (15 名)
(欠席委員) 望月, 橘高, 大木, 新井, 金島, 臼井 (6 名)
(常時参加者) 本田, 天間 (2 名)

4. 配布資料

- 資料P14SC-37-1 第36回PLM分科会議事録案
P14SC-37-2 人事
P14SC-37-3 PLM実施基準2014の転載許諾手続き
P14SC-37-4 PLM実施基準2015年版(追補1)標準委員会書面投票結果
P14SC-37-5 経年劣化メカニズムまとめ表2016年版(追補2)案の確認依頼(案)
P14SC-37-6 断続的運転評価及び冷温停止状態維持評価の経年劣化メカニズムまとめ表への反映方針(案)
P14SC-37-7 PLM実施基準の販売方法
P14SC-37-8 スケジュール

参考資料

- P14SC-37-参考1 システム安全専門部会標準策定5カ年計画(平成27年度版案)

5. 議事

会議に先立ち, 出席委員は 15 名で, 定足数を満足している旨確認した。

(1) 前回議事録確認 (P14SC-37-1)

第 36 回 PLM 分科会議事録案が確認され, 承認された。

参考 1 に記載のある PLM 実施基準 2014 年版英訳の作成については, システム安全専門部会の審議状況をフォローすることになった。

(2) 人事 (P14SC-37-2)

・委員の退任

松村委員, 臼井委員の退任が報告された。

・委員の新任

新委員として四国電力の三好氏, 中国電力の中川氏が推薦されている旨説明され, 審議の結果新委員として選任された。

(3) PLM実施基準2014の転載許諾手続き (P14SC-37-3)

出典の記載がなかった5つの文献について、参考文献に追記することが提案され、了承された。

追記する JNES 審査マニュアルが 2009 年版となっているが、2013 年版としなくてもよいか確認することになった。(確認結果: 引用している内容は 2009 年版にしかなかった。)

(4) PLM 実施基準 2015 年版 (追補 1) 標準委員会書面投票結果 (P14SC-37-4)

標準委員会書面投票の結果、コメントもなく可決されたことが報告された。

今後は、6/1 にシステム安全専門部会、6/12 に標準委員会にこの結果が報告され、公衆審査に入る予定であることが確認された。

(5) 経年劣化メカニズムまとめ表 2016 年版 (追補 2) 案の確認依頼 (P14SC-37-5)

秋のシステム安全専門部会に本報告できるように、追補 2 案を確認する依頼があり、配布資料に記載のスケジュール及び分担が了承された。なお、確認するまとめ表は、別途メールで配布することとなった。

電力共通技術基盤から経年劣化メカニズムまとめ表への反映項目の提案が、本報告に間に合うように働きかけることとなった。

追補作成の合理化、40 年超え評価のやり方検討、特別点検結果の取扱いなどは、継続して検討していく必要があることが確認された。

(6) 断続的運転評価及び冷温停止状態維持評価の経年劣化メカニズムまとめ表への反映方針 (P14SC-37-6)

冷温停止状態維持評価のみ審査が終了しているプラントの情報は、後で実施される断続運転評価の審査終了を待って、まとめ表に一度に反映するのではなく、それぞれ審査の終了したものを 2 回に分けて反映する方が、最新知見反映の観点からは望ましいことが確認された。

今回の高浜 1 号は 2 回に分けて反映することとして、他のプラントはそれぞれの状況に応じて、その都度どうするか決めることとなった。

(7) PLM 実施基準の販売方法 (P14SC-37-7)

PLM 実施基準別冊のまとめ表の販売方法について、CD-ROM 化などのデータ方式の販売とすることが提案され、了承された。

電子データ化の方向で学会事務局と調整することとなった。

(8) スケジュール

次回は秋のシステム安全専門部会の前（8/末頃）に行うこととして，別途メールで日程を調整することとなった。

システム安全専門部会から依頼されている講習会については，対象者や費用などについて学会事務局と調整した上で，次回の分科会で項目（基準の構成・考え方，まとめ表の作成方法・見方など）や分担を検討することとなった。

以上